

# 二世豊竹古靱大夫床年譜（七）

（電載不許）

年

次

劇場並に狂言

古靱大夫に關する記事

淨瑠璃界一觀

大正二年

十月廿六日初日  
（二十三日間）

文樂座

前 加賀見山舊錦繪 大序より  
中 艶容女舞衣 酒屋之段  
切 御所櫻堀川夜討 辨慶上使之段

十月十九日初日  
（七日間）

竹本越路大夫一座  
京都 明治座

十二月四日初日  
（七日間）

東京 新富座

三月十三日初日  
（五日間）

名古屋 御園座

大正三年（廿七歲）

一月二日初日  
（二十七日間）

前 鎌倉三代記 文樂座  
中 諺の門松 大序より  
切 名筆吃又平 八ツ目迄  
土佐將監閑居之段  
天津繪拔ケ之段

二月十日初日  
（三十日間）

前 菅原傳授手習鑑 同座  
寺子屋之段迄

役場（初役）辨慶上使之段切  
三味線 三世鶴澤清六

古靱大夫清六出勤

役場（初役）新町之段  
「壽の門松」は近松門左衛門翁六拾六

歳の時、大正三年より百九拾六年前の著作にして、今回は書下しより第四回の上演。松屋町廣助師再調の上、上演を見たるものなり。古靱大夫が近松翁の原作ものに出演したるは、明治四十三年四月に釋迦如來誕生會につぐ第二回目なり。

役場（初役）序切筆法之段  
三味線 三世鶴澤清六

賞興行限り五世鶴澤文藏引退す。役は加賀見山草履打之段掛合の三味線を弾く。人形部、吉田駒十郎出座。

是にて冬休。

竹本靜大夫再出座。  
五世鶴澤徳太郎初めて出座。

竹本伊達大夫、豊澤猿次郎初めて出座。役場本朝廿四孝十種香追出し。

切 本朝廿四孝 十種香之段

文 樂 座

前 假名手本忠臣藏 大序より  
切 壺坂靈驗記 澤市住家之段

三月廿六日初日  
(三十二日間)

鶴澤清六父母追善興行  
靜岡 入道館

五月八日初日  
(三 日間)

前 伽羅先代萩 文 樂 座  
中 卅三間堂棟由來 大序より  
次 伊賀越 御殿之段迄  
切 戀娘昔八丈 平太郎住家之  
鈴ヶ森之段

役場 (二度目) 殿中弘傷之段切  
三味線 三世鶴澤清六

(初役) 祇園 一力之段  
掛合 平右衛門

三味線 三世鶴澤清六  
此の役津大夫と一日替りにて、津大  
夫の日は三味線鶴澤友次郎出勤

出演者 古親大夫、靜大夫、光大夫  
つばめ大夫、い大夫、清六、徳太  
郎、芳之助、淺造

役場 (初役) 殖生村之段切  
三味線 三世鶴澤清六  
右の役より二段目語りとなる。

竹本興行中故人桐竹紋十郎悻、三左衛門一。法名明三淨教信士、行年三十一。松治郎、三世野澤語助(本名成瀬改稱し、後語助と改め又語息榮、三度改名して語助となる。法名榮譽觀光松壽信士、行年八十六。墓所東京市淺草區老松町壽松院。又青山墓地にも有)

猿次郎、四世豊澤仙糸と改名。  
鶴澤大三郎、五世鶴澤才治と改名。  
三三竹本越路大夫。文樂座にて初めて九段目切を勤む。  
昭憲皇太后陛下御病篤き御趣にて四月十日より歌舞音曲停止、翌十一日薨去遊ばさる。  
四月十五日、返り初日、尙ほ三月三十一日四月三十日兩日は晦に付き休演、五月三日打揚ぐ。

富大夫、七世駒大夫と改名。  
昭憲皇太后陛下御大葬に付き、五月廿四、廿五、廿六三日間歌舞音曲停止五月廿七日返り初日。

六月十八日初日  
(十七日間)

同座  
前 生寫朝顔話 大序より  
大井川之段

中 近頃河原遠引 四條河原之段  
堀川之段

切 伊勢音頭戀寝刃 油屋之段  
奥庭之段

七月十日初日  
(七日間)

京都 南座

七月十八日初日  
(七日間)

名古屋 御園座  
(人形入)

八月一日初日  
(五日間)

竹本越路大夫一座  
信州飯田曙座

八月八日初日  
(三日間)

中津川 旭座

八月十八日初日  
(三日間)

諏訪 都座

八月廿二日初日  
(三日間)

松本 松本座

八月廿六日初日  
(四日間)

長野 三幸座

九月一日初日  
(七日間)

新潟 改良座

九月廿三日初日  
(二十五日間)

前 一谷嫩軍記 文樂座  
大序より  
熊谷陣屋之段迄  
中 攝州合邦辻 合邦住家之段

役場 (初役)濱松之段奥  
三味線 三世鶴澤清六

出演者  
南部大夫、廣作、伊達大夫、仙糸、  
古籾大夫、兵内ほか  
参加者  
古籾大夫、清六、源大夫、勝市、む  
ら大夫、兵内ほか  
本巡業中、興行休みを利用して、越  
路大夫、古籾大夫、常子大夫、勝市  
生内、おゑん、昇、友平、中津川相  
生主人等一行九名にて木曾御嶽山に  
登山せし處三十年來の大暴雨に遭難  
す。

役場 (初役)はやし住家之段初  
三味線 三世鶴澤清六

本興行限り豊澤仙糸退座

是にて夏休

松本市松本座出勤中八月二十三日、  
日獨宣戦布告さる。

花勇、鶴澤勇造と改名、久々出座。  
竹本伊達大夫の三味線鶴澤寛治郎勤  
む。十月四日、古籾大夫門人光夫  
歿す。法名釋光仁、行年三十七。  
ことなり。美聲の所有者なりしが惜しき

十月三十日初日  
(二十日間)

前 平假名盛衰記 大序より  
四段目迄  
中 和田合戦女舞鶴 市若丸初陣之  
段  
切 桂川榎理柵 六角堂之段より  
道行迄

十二月廿四日初日  
(五日間)

竹本越路大夫一座  
岡山 千歳座

十二月一日初日  
(七日間)

神戸 相生座

十二月九日初日

名古屋 御園座

大正四年(卅八歳)  
一月二日初日  
(三十二日間)

前 繪本太功記 大序より  
十段目迄  
中 嶋山古跡松 豊成館之段  
中將姫雪實之段  
切 艶容女舞衣 酒屋之段  
道行

二月十日初日  
(二十八日間)

前 伊賀越 大序より  
八ッ目迄  
中 近頃河原達引 堀川之段  
切 壇浦兜軍記 琴實之段

役場 (初役)笹引之段奥

三味線 三世鶴澤清六  
(初役)市若丸初陣之段中  
三味線 鶴澤清六

古軼大夫参加

役場 (初役)右大臣豊成館之段 (座  
敷率)

三味線 三世鶴澤清六

役場 (初役)政右衛門屋敷之段切

替り役 三味線 三世鶴澤清六  
掛合 三味線 三世鶴澤清六

右替り役は三日目より千秋樂迄

十一月二日、三世竹本勢見大夫(本  
名桑川勝治郎)歿す。法名釋勢見  
翁居士、行年九十六。墓所上本町四  
丁目長樂寺にあり

是にて冬休。

野澤吉三郎伊達太夫合三味線として  
初めて文樂座へ出座。役場酒屋之段  
人形部吉田文五郎出座。役場酒屋之段  
鈴木清吉(歿す。法名清室勇音信士  
行年六十二。墓所大阪阿部野墓地内  
にあり)

本興行より竹本越路大夫櫓下となる  
役場伊賀越岡崎の切。

人形部、三世吉田玉藏再出座。